

倉敷商工会議所青年部・倉敷法人会青年部会合同 映画「チベットチベット」上映会 …監督の金森太郎氏も参加されます！…

日 時 : 平成16年7月1日(木) 18時30分～
商工会議所青年部の方は、18時から30分間例会を行います
会 場 : 倉敷商工会議所第1・2会議室
参加費 : 1,000円 (会員の家族で高校生以下の方は無料)
(内500円は映画制作費として制作会社へ、500円はチベットに寄付されます)

二つの祖国をもつ在日コリアンの青年が見た二つのチベット



「TIBET TIBET」

監督・撮影/金森太郎こと金昇龍

編集・構成/梶 愛

音楽監督/大久保智之

協賛/株式会社コクド

製作著作/RAGOS

配給元/OPEN JAPAN <http://peace2001.org>



神々の存在を予感させるヒマラヤの大地、そこに暮らす純朴な人々。

極限の地で育まれたチベット仏教の高度な精神世界。

チベットには私たち近代文明社会に生きる者たちが失くしてしまった、人類のもう一つの可能性が詰まっています。

そのチベットに1950年中国軍が侵攻。1959年にはチベットの政治と宗教の最高指導者ダライラマ14世がインドに亡命。以来、中国政府による漢民族のチベット入植が始まり、現在ではチベット人の人口600万人に対し、漢民族750万人に達しています。

それにより10数万のチベット人がインドやネパールに亡命。

今まさにチベット人の持つ民族性、精神性がどんどん失われようとしています。

1997年10月、作者は世界旅行の途中にチベット亡命政府のある北インドのダラムサラを訪れました。そこはインド人とチベット人が共生する一見平和な街でした。作者自身、在日コリアン3世で作者はここで自分と同じように「移民」として異国で暮らすチベット人に出会った訳です。

初めのうちは彼らと在日の間に「移民」としての共通点や相違点を探していたのですが、次第に彼らの受難の経緯が見えてくるようになりました。

1998年にはチベット本土への撮影旅行を敢行、チベットの現状を旅人の視点から余すところなく捕えました。そして1999年にはヒマラヤを越えて亡命して来たばかりの移民たちにカメラを向けることに成功しました。

今でも雪のヒマラヤを歩いて亡命して来るチベット人が後をたたない…、そんな現状を知り、カメラを回し始めました。少しでも多くの人にこの問題を知ってほしい…。この思いはダラムサラの亡命政府にも届き、ダライラマ14世への直接インタビューをも可能にしました。

このように映画 TIBET TIBET はチベット問題を全く知らなかった作者が自分自身の成長に合わせて大きな問題を考えていこうとする過程を追ったノンフィクション・ロードムービーと言えます。その為、チベット問題について全く知らない人が見ても十分理解し、楽しむ事が出来る内容の作品に仕上がっております。